

# 北海道経済の現状と課題 経済活性化に向けた取組方向

H23.7

北海道経済部

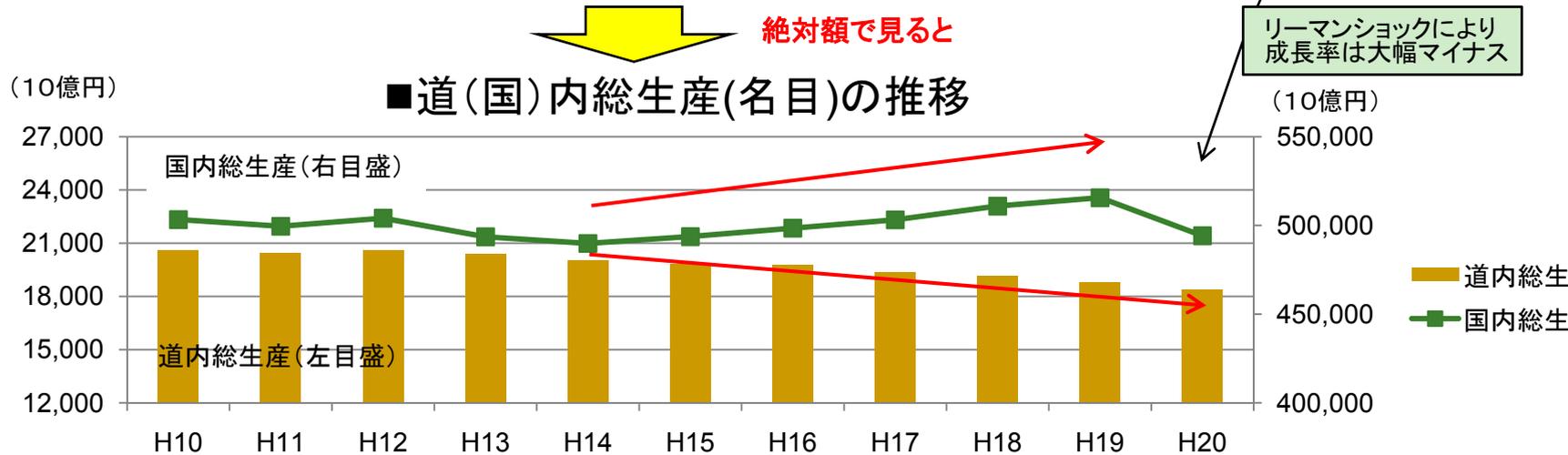
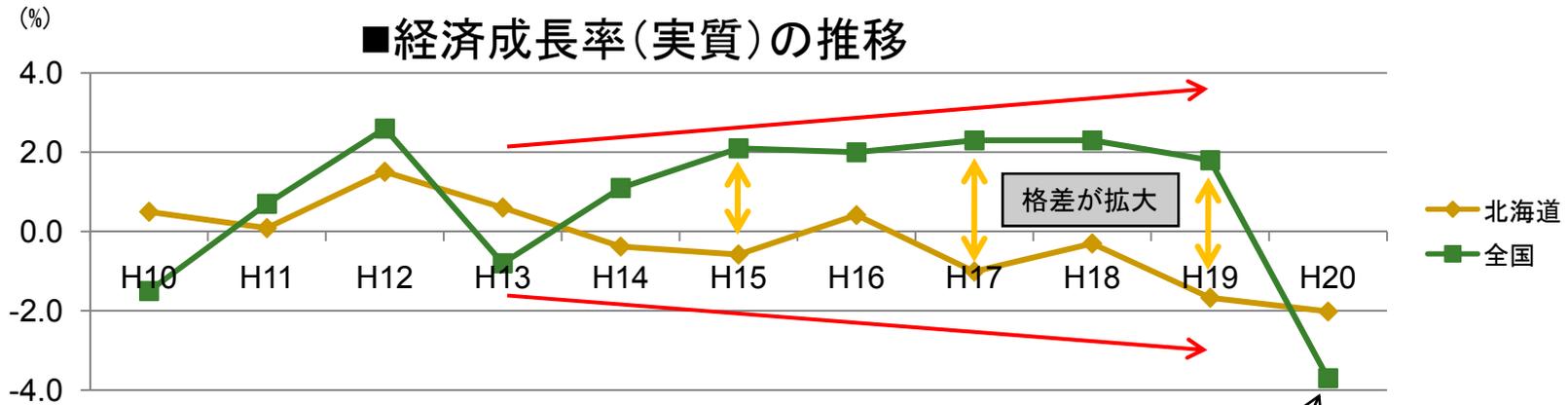
# 目次

北海道経済の姿	3
中期的な北海道経済の成長率(実質)と総生産(名目)の推移	4
北海道経済の構造 - 1 [総生産(生産側・支出側)]	5
北海道経済の構造 - 2 [製造業の特徴]	6
北海道経済の構造 - 3 [製造品出荷額の推移]	7
北海道経済の構造 - 4 [域際収支(時系列推移)]	8
北海道経済の構造 - 5 [域際収支(業種別)]	9
観光産業経済効果	10
マイナス成長の要因分析 - 1 [産業構造の問題]	11
マイナス成長の要因分析 - 2 [産業構造の問題]	12
マイナス成長の要因分析 - 3 [産業の競争力の問題]	13
マイナス成長の要因分析 - 4 [地域間の経済格差の問題]	14
活性化の動き(経済指標の推移)	15

# 北海道経済の姿

		全国シェア
■ 総面積	8.3万km <sup>2</sup> (H22)	22.1%( 1 位)
■ 総人口	551万人(H22)	4.3%( 8 位)
■ 道内総生産(名目)	18.4兆円(H20)	3.7%( 8 位)
■ 農業産出額	1.0兆円(H21)	12.2%( 1 位)
■ 製造品出荷額等	5.1兆円(H21)	2.0%(18位)
■ 卸売業販売額	11.7兆円(H19)	2.8%( 6 位)
■ 小売業販売額	6.2兆円(H19)	4.6%( 6 位)

# 中期的な北海道経済の成長率(実質)と総生産(名目)の推移



	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20
全国シェア	4.1%	4.1%	4.1%	4.1%	4.1%	4.0%	4.0%	3.8%	3.8%	3.6%	3.7%
全国順位	6位	5位	6位	5位	6位	6位	6位	6位	8位	9位	(未集計)

(出展) 全国は、内閣府「平成20年度国民経済計算確報」による。  
北海道は、道総合政策部「道民経済計算」による。

# 北海道経済の構造－1 [総生産(生産側・支出側)]

## ■ 平成20年度道内・国内総生産(生産側(経済活動別)・名目)

(単位:10億円)

項目	北海道		全国	
	総生産	構成比	総生産	構成比
1 産業	15,373	83.7%	456,846	90.4%
(1)農林水産業	683	3.7%	7,372	1.5%
① 農業	469	2.6%	5,989	1.2%
② 林業	47	0.3%	434	0.1%
③ 水産業	166	0.9%	949	0.2%
(2)鉱業	35	0.2%	408	0.1%
(3)製造業	1,486	8.1%	100,279	19.9%
(4)建設業	1,255	6.8%	30,924	6.1%
(5)電気・ガス・水道業	355	1.9%	9,008	1.8%
(6)卸売・小売業	2,235	12.2%	69,617	13.8%
(7)金融・保険業	721	3.9%	29,395	5.8%
(8)不動産業	2,342	12.8%	61,806	12.2%
(9)運輸・通信業	1,667	9.1%	34,001	6.7%
(10)サービス業	4,595	25.0%	114,036	22.6%
2 政府サービス生産者	3,075	16.7%	48,220	9.5%
3 対家計民間非営利サービス生産者	421	2.3%	10,831	2.1%
4 小計(1+2+3)	18,869	102.8%	515,897	102.1%
5 輸入品に課される税・関税	117	0.6%	5,945	1.2%
6(控除)総資本形成に係る消費税	99	0.5%	3,610	0.7%
7(控除)帰属利子	527	2.9%	22,633	4.5%
8 経済活動別道内総生産(4+5-6-7)	18,360	100.0%	505,112	100.0%
(参 考)				
第1次産業	683	3.6%	7,372	1.4%
第2次産業	2,776	14.7%	131,611	25.5%
第3次産業	15,410	81.7%	376,914	73.1%

※全国は暦年

域際収支は1.6兆円の赤字

総生産に占める製造業の割合は8.1%(全国19.9%)

## ■ 平成20年度道内・国内総生産(支出側・名目)

(単位:10億円)

項目	北海道		全国	
	総支出	構成比	総支出	構成比
1 民間最終消費支出	11,361	61.9%	288,105	58.3%
(1) 家計最終消費支出	11,103	60.5%	281,695	57.0%
(2) 対家計民間非営利団体 最終消費支出	258	1.4%	6,410	1.3%
2 政府最終消費支出	5,136	28.0%	93,555	18.9%
3 道内総資本形成	3,225	17.6%	114,454	23.2%
(1) 総固定資本形成	3,308	18.0%	112,742	22.8%
a 民間	2,018	11.0%	93,115	18.8%
(a) 住宅	517	2.8%	16,404	3.3%
(b) 企業設備	1,501	8.2%	76,710	15.5%
b 公的	1,290	7.0%	19,627	4.0%
(a) 住宅	41	0.2%	536	0.1%
(b) 企業設備	180	1.0%	4,096	0.8%
(c) 一般政府	1,070	5.8%	14,996	3.0%
(2) 在庫品増加	-82	-0.4%	1,712	0.3%
a 民間企業	-81	-0.4%	1,468	0.3%
b 公的	-1	0.0%	245	0.0%
4 財貨・サービスの移輸出入 ・統計上の不突合	-1,363	-7.4%	-1,916	-0.4%
(1) 財貨・サービスの移輸出	5,692	31.0%	78,314	15.8%
(2) (控除)財貨・サービスの 移輸入	7,253	39.5%	80,230	16.2%
(3) 統計上の不突合	198	1.1%		0.0%
5 道内総生産(支出側) (=1+2+3+4)	18,360	100%	494,199	100%
(参考) 民間需要	13,297	67.4%	382,687	77.1%
公的需要	6,425	32.6%	113,427	22.9%

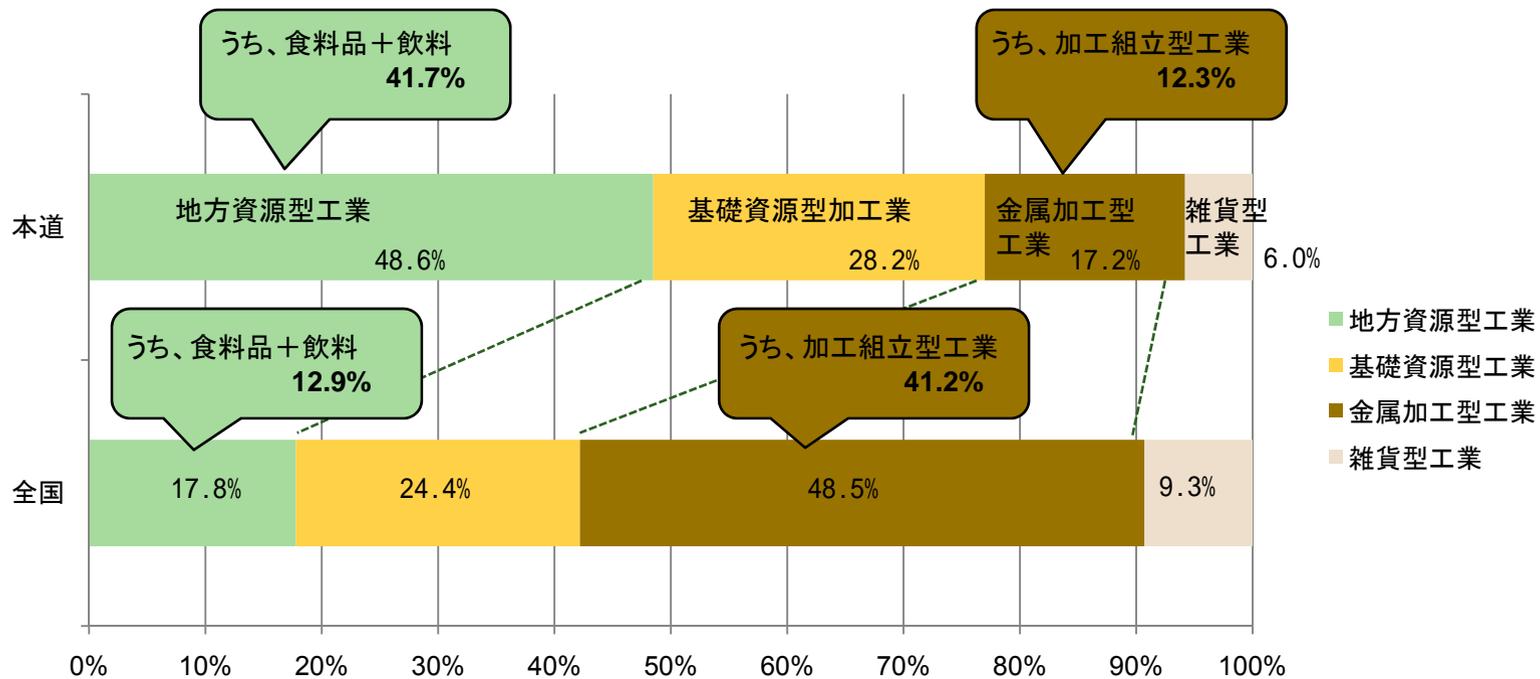
※全国は年度

総支出に占める公的需要の割合は32.6%(全国22.9%)

(出展:北海道「平成20年度道民経済計算」より)

# 北海道経済の構造－2 [製造業の特徴]

## 【製造業の業種別構成比(H21)】



- 地方資源型工業……食品製造業や飲料・たばこ・飼料製造業、繊維工業 など
- 基礎資源型加工業……鉄鋼業や石油製品・石炭製品製造業、パルプ・紙・紙加工品製造業 など
- 金属加工型工業……金属製品製造業や各種機械製造業 など
- 加工組立型工業……金属加工型工業から金属製品製造業を除いた業種
- 雑貨型工業……プラスチック製品製造業や家具・装備品製造業 など

# 北海道経済の構造－3 [製造品出荷額の推移]

平成21年の製造品出荷額は5兆2千億円で、平成19年と比べ9.4%減少。

年次	製造品出荷額等	対前年増減	対前年増減率
H17	54,647	2,020	3.8
H18	57,496	2,849	5.2
H19	57,396	▲100	▲0.2
H20	59,174	1,778	3.1
H21	52,026	▲7,149	▲12.1

	製造品出荷額等(億円)							
	H19	H20	H21	(H21)-(H19)	対H19 増減率(%)	構成比(%)		
						19年	20年	21年
<b>総数</b>	57,396	59,174	52,026	▲5,370	▲9.4	100.0	100.0	100.0
食料品製造業	18,991	19,219	19,282	291	1.5	33.1	32.5	37.1
飲料・たばこ・飼料製造業	2,489	2,437	2,380	▲109	▲4.4	4.3	4.1	4.6
繊維工業	288	271	256	▲32	▲11.0	0.5	0.5	0.5
木材・木製品製造業(家具を除く)	1,817	1,657	1,451	▲365	▲20.1	3.2	2.8	2.8
家具・装備品製造業	578	489	362	▲216	▲37.4	1.0	0.8	0.7
パルプ・紙・紙加工品製造業	4,465	4,567	4,142	▲322	▲7.2	7.8	7.7	8.0
印刷・同関連業	1,629	1,464	1,310	▲319	▲19.6	2.8	2.5	2.5
化学工業	1,557	1,712	1,615	58	3.7	2.7	2.9	3.1
石油製品・石炭製品製造業	5,349	6,270	3,841	▲1,508	▲28.2	9.3	10.6	7.4
プラスチック製品製造業	1,023	1,242	1,012	▲11	▲1.1	1.8	2.1	1.9
ゴム製品製造業	134	121	122	▲12	▲8.9	0.2	0.2	0.2
なめし革・同製品・毛皮製造業	59	61	52	▲7	▲11.5	0.1	0.1	0.1
窯業・土石製品製造業	2,132	2,010	1,899	▲233	▲10.9	3.7	3.4	3.7
鉄鋼業	5,530	6,541	4,926	▲604	▲10.9	9.6	11.1	9.5
非鉄金属製造業	173	175	129	▲43	▲25.1	0.3	0.3	0.2
金属製品製造業	2,811	2,704	2,567	▲244	▲8.7	4.9	4.6	4.9
はん用機械器具製造業	626	451	383	▲243	▲38.8	1.1	0.8	0.7
生産用機械器具製造業	768	872	798	30	4.0	1.3	1.5	1.5
業務用機械器具製造業	99	67	58	▲41	▲41.5	0.2	0.1	0.1
電子部品・デバイス・電子回路製造業	1,908	1,679	1,211	▲696	▲36.5	3.3	2.8	2.3
電気機械器具製造業	558	703	572	15	2.7	1.0	1.2	1.1
情報通信機械器具製造業	1,099	838	726	▲373	▲33.9	1.9	1.4	1.4
輸送用機械器具製造業	2,967	3,311	2,657	▲310	▲10.4	5.2	5.6	5.1
その他の製品製造業	348	313	272	▲76	▲21.8	0.6	0.5	0.5

(出典:工業統計調査)

# 北海道経済の構造－4 [域際収支(時系列推移)]

【域際収支の時系列推移】

	H15	H16	H17	H18	H19	H20	(H20-H15)
移輸出	51,684	5,2408	54,820	57,914	58,302	56,918	5,234
移輸入	73,566	71,941	72,270	72,823	73106	72,531	▲1,035
域際収支	▲21,882	▲19,533	▲17,451	▲14,909	▲14,803	▲15,613	▲6,269

域際収支は、H20年度で1.6兆円の入超となっているものの、この5年間は概ね減少傾向

その要因としては、次の要素がともに貢献。  
(過去5年で約6,000億円減少)

移出・輸出額の増加。  
(過去5年で約5,000億円貢献)  
鉄鋼や電気機械などの製造業、商業などサービス産業の増加。

移入・輸入の減少。  
(過去5年で約1,000億円貢献)

【域際収支の業種別時系列比較】

		域際収支		H17-H12
		H12	H17	
農林水産業		2,356	3,692	1,336
鉱業		▲2,554	▲6,008	▲3,454
製造業		▲31,355	▲28,061	3,294
(主なもの)	飲食料品	3,657	1,769	▲1,888
	パルプ・紙	2,366	1,860	▲506
	化学製品	▲6,349	▲6,215	134
	石油・石炭製品	▲1,415	▲497	918
	鉄鋼製品	▲132	896	1,028
	非鉄金属製品	▲744	▲709	35
	金属製品	▲1,640	▲1,368	272
	一般機械	▲4,205	▲4,414	▲209
	電気機械	▲7,534	▲5,652	1,882
	輸送機械	▲4,454	▲4,901	▲447
建設業		▲130	▲123	7
サービス産業		▲6,766	▲3,845	2,921
(主なもの)	公益事業	▲758	▲351	407
	商業	▲3,307	893	4,200
	運輸	4,263	3,918	▲345
	情報通信	▲4,891	▲4,419	472
	対事業所サービス	▲3,214	▲2,254	960
	対個人サービス	3,220	483	▲2,737
産業計		▲38,449	▲34,345	4,104

(出典:北海道経済産業局)

# 北海道経済の構造－5 [域際収支(業種別)]

単位：百万円

業種別では、食関連産業や観光産業が黒字を稼いでいる一方で、工業製品などが赤字となっている。

## 【域際収支の黒字上位業種】

- 運輸(プラス3,900億円)
- 農林水産業(プラス3,700億円)
- 飲食料品(プラス1,800億円)

## 【域際収支の赤字上位業種】

- 化学製品(マイナス6,200億円)
- 鉱業(マイナス6,000億円)
- 電気機械(マイナス5,700億円)

製造業

サービス業

	輸出+移出	輸入+移入	域際収支
農林水産業	734,482	▲365,289	369,193
鉱業	44,562	▲645,421	▲600,859
飲食料品	1,289,285	▲1,112,388	176,897
繊維製品	13,952	▲272,219	▲258,267
製材・木製品・家具	118,450	▲156,795	▲38,345
パルプ・紙・板紙・加工紙	320,774	▲134,787	185,987
化学製品	103,785	▲725,281	▲621,496
石油・石炭製品	487,143	▲536,803	▲49,660
プラスチック製品	16,629	▲122,961	▲106,332
窯業・土石製品	45,020	▲83,941	▲38,921
鉄鋼製品	249,379	▲159,780	89,599
非鉄金属製品	14,148	▲85,047	▲70,899
金属製品	61,013	▲197,795	▲136,782
一般機械	93,589	▲534,988	▲441,399
電気機械	216,130	▲781,342	▲565,212
輸送機械	203,368	▲693,546	▲490,178
精密機械	4,705	▲120,041	▲115,336
その他の製造工業製品	49,645	▲375,430	▲325,785
建設	724	▲12,992	▲12,268
公益事業	3,319	▲38,420	▲35,101
商業	1,685,829	▲1,596,540	89,289
金融・保険・不動産	41,980	▲130,919	▲88,939
運輸	962,316	▲570,500	391,816
情報通信	105,024	▲546,910	▲441,886
公務・教育・研究	26,383	▲141,268	▲114,885
医療・保健・社会保障・介護	21,366	▲1,254	20,112
対事業所サービス	117,371	▲342,805	▲225,434
対個人サービス	266,737	▲218,368	48,369
その他生産部門	1,781	▲29,610	▲27,829
<b>産 業 計</b>	<b>7,298,889</b>	<b>▲10,733,440</b>	<b>▲3,434,551</b>

(出典：北海道経済産業局)

# 観光産業経済効果

生産波及効果を産業別みると、サービス業が7,420億円と最も生産波及効果が大きく、40.7%を占めた。次いで運輸・通信業が3,646億円（20.0%）、製造業が2,392億円（13.1%）、商業が1,739億円（9.5%）となった。

また、観光消費による生産波及効果フローをみると、道民消費による生産波及効果が9,363億円（51.3%）、来道者による生産波及効果が7,586億円（41.6%）、訪日外国人来道者による生産波及効果が1,288億円（7.1%）と推計された。

観光消費による産業別生産波及効果 (単位: 百万円、%)

順	産業部門	観光消費額	直接効果	生産波及効果		構成比	
				計	生産誘発効果 (道民+来道)		家計迂回効果 (来道)
01	農林水産業	41,959	31,733	79,748	72,609	1,739	4.4%
02	鉱業	0	0	3,980	3,288	523	0.2%
03	製造業	219,924	119,976	239,237	204,938	34,233	13.1%
04	商業	0	0	12,527	8,499	4,028	9.5%
05	電気・ガス・水道業	0	0	69,173	49,289	14,984	3.5%
06	庁業	95,686	59,488	173,937	119,969	62,969	9.9%
07	金融・保険業	1,026	1,026	69,887	41,825	28,062	3.6%
08	不動産業	0	0	77,178	17,448	59,727	4.2%
09	運輸・通信業	271,689	285,377	394,684	324,548	70,136	20.0%
10	サービス業	599,549	599,549	742,080	653,091	88,987	40.7%
11	その他	0	0	1,587	677	910	0.1%
合計		1,294,219	1,045,136	1,523,679	1,495,494	27,181	100.0%

観光消費による生産波及効果フロー

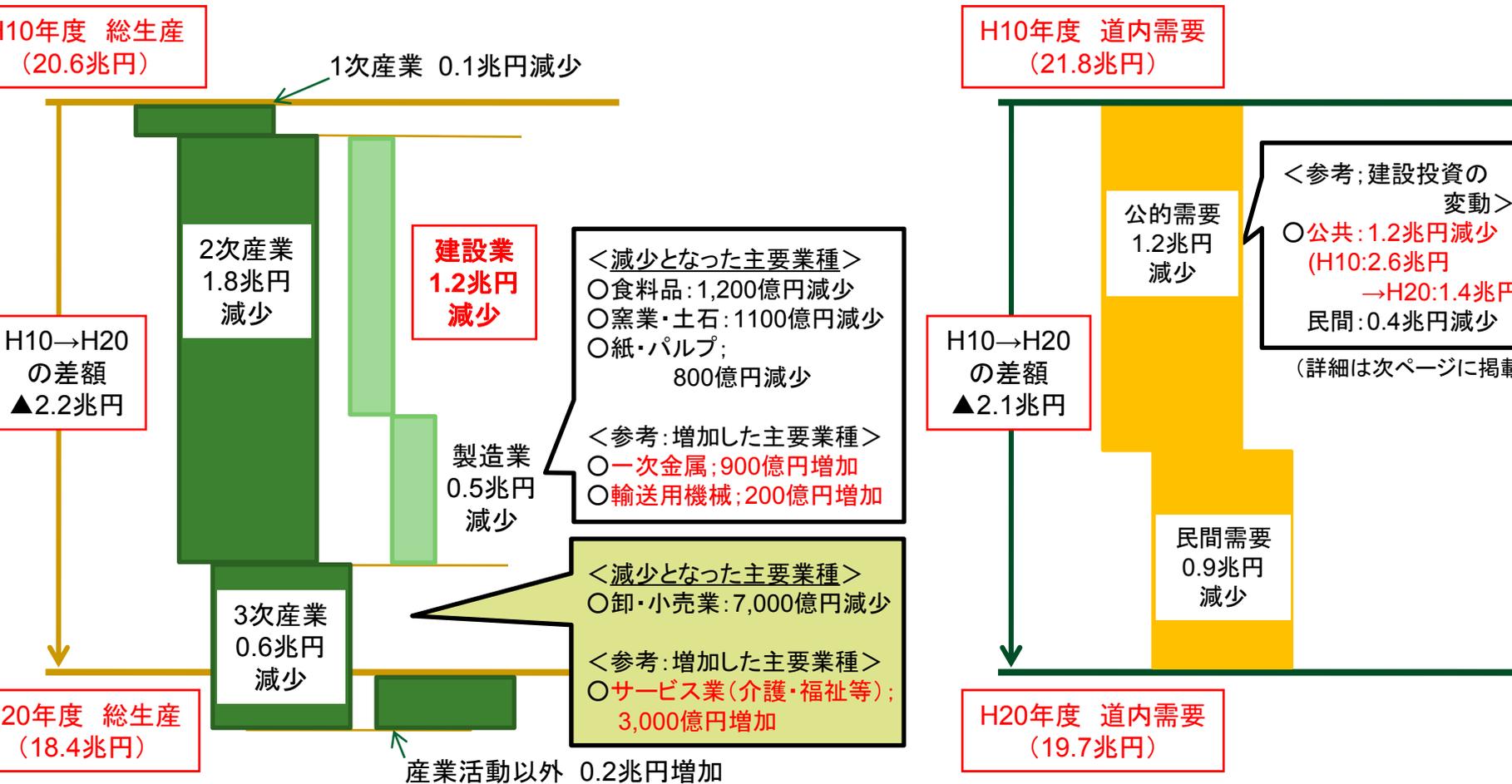


(出典:北海道観光産業経済効果調査)

# マイナス成長の要因分析ー1 [産業構造の問題①]

生産側（経済活動）から見た要因（H10とH20年度比較、名目）

■ 需要側から見た要因（H10とH20年度比較、名目）

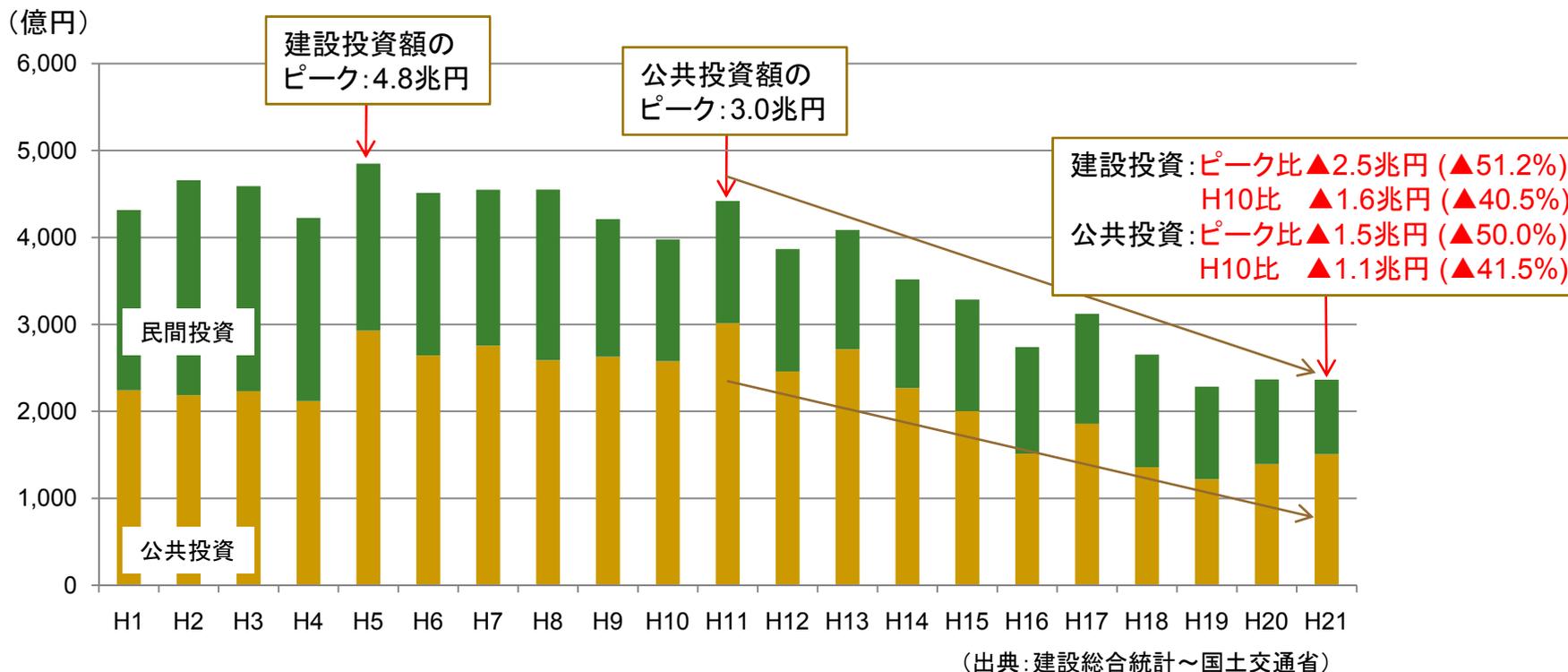


四捨五入の関係で、小数点以下は一致しない場合がある。

道内需要は(総生産)-(移輸出入と統計上の不突合)

# マイナス成長の要因分析ー2 [産業構造の問題②]

## 【北海道における建設投資額の推移】

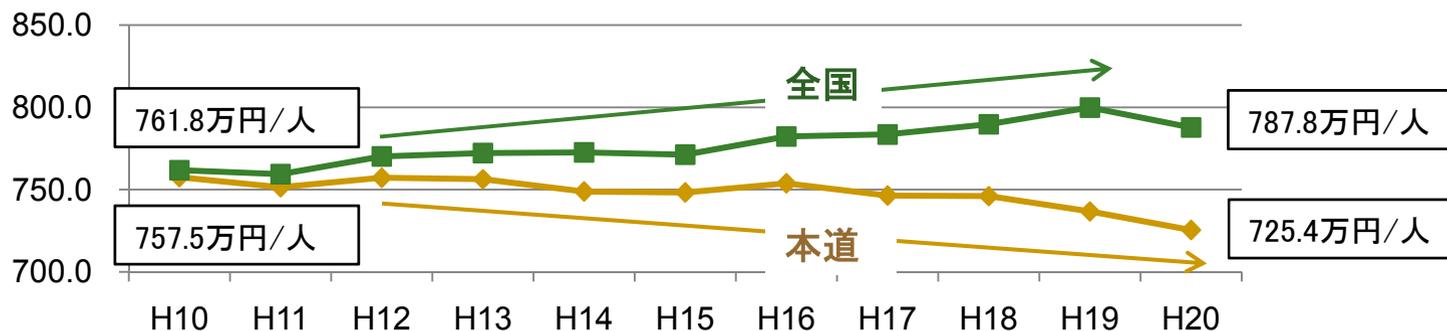


○建設投資は、ピークから比べると半減。

○現段階では、こうした公的需要の急速な落ち込みを民間需要の拡大で補い切れていない点が、マイナス成長の理由の一つ。

# マイナス成長の要因分析－3 [産業競争力の問題]

(万円/人) 【労働生産性(総生産/就業者数)の時系列比較】



【本道の産業別の労働生産性の比較 (H20)】

(単位:万円/人)

	北海道		全国平均	差
第1次産業	341.3	>	228.5	112.8
第2次産業	609.1	<	812.0	▲202.9
第3次産業	855.2	>	843.5	11.6

【本道の2次産業における労働生産性の比較(H20)】

(単位:万円/人)

	北海道		全国	差
鉱業	1180.0	>	906.2	+273.8
製造業	723.3	<	917.0	▲193.7
建設業	507.5	<	591.5	▲84.0

○個々の産業の競争力(労働生産性)も、全国との格差が拡大傾向。

(出典:道民経済計算)

# マイナス成長の要因分析－4 [地域間の経済格差の問題]

## 【圏域別の総生産額推移】

(単位:億円)

出典:北海道開発局

	H10年	H15年	差(H15-H10)	減少率
道央	204,945	199,968	-4,977	-2.4%
道南	28,462	28,382	-80	-0.3%
道北	42,330	37,457	-4,873	-11.5%
オホーツク	23,525	22,031	-1,494	-6.4%
十勝	25,308	23,361	-1,947	-7.7%
釧路根室	26,133	23,777	-2,356	-9.0%
Total	350,703	334,975	-15,728	-4.5%

## 【圏域別人口推移】

(単位:人)

出典:国立社会保障・人口問題研究所・道経連

	2005年(H17)	2030年(H42)	2040(H52)	2030年/2005年	2040年/2005年
道央	3,433,721	3,033,152	2,740,970	-11.7%	-20.2%
道南	496,431	358,007	297,599	-27.9%	-40.1%
道北	672,642	509,207	432,129	-24.3%	-35.8%
オホーツク	324,849	240,592	202,348	-25.9%	-37.7%
十勝	354,146	295,231	262,255	-16.6%	-25.9%
釧路根室	345,948	248,227	205,945	-28.2%	-40.5%
Total	5,627,737	4,684,416	4,141,246	-16.8%	-26.4%

○道内においては、道央圏以外の地域の総生産の落ち込みが顕著であり、今後も人口減が顕著に進行することから、地方はより一層厳しい状況が続くと予測。

# 活性化の動き（経済指標の推移）

## 外国人観光客の増加

### ◆外国人来道客数

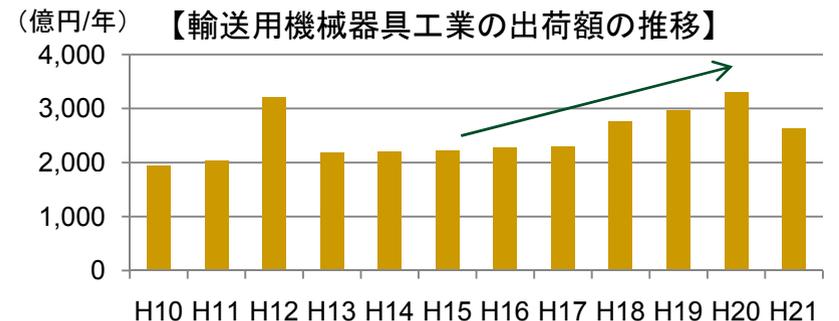
17.0万人(H10)→69.8万人(H20)  
→67.5万人(H21)



## ものづくり産業の集積

### ◆輸送用機械の出荷額

1,951億円(H10)→3,311億円(H20)  
→2,635億円(H21)



## IT・バイオ産業の成長

### ◆IT産業の売上高

2,294億円(H10)→4,187億円(H20)  
→4,122億円(H21)

### ◆バイオ産業の売上高

105億円(H11)→434億円(H20)  
→461億円(H21)

